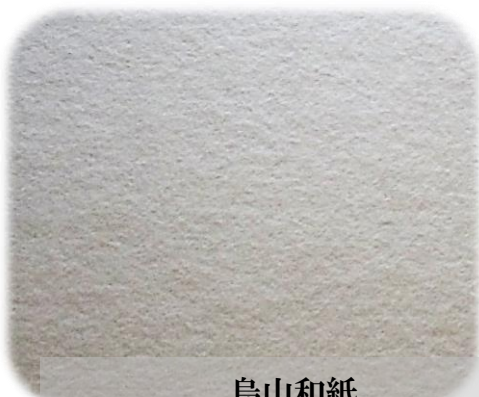




八溝杉

八溝山系で伐採された木材です。狂いにくい、木目がきれい、赤身の色が美しい、曲げ強度が強いなどの特質を備え、関東きっての良材といわれています。



烏山和紙

襖に使われているのは、烏山和紙を代表する「程村」です。烏山近辺で産する楮^{こうぞ}を原料として漉いたもので、「厚紙の至宝」と称されています。



蔓のパーティション

自然の素材を大切にする隈研吾氏。パーティションには探訪館の前にある御殿山の藤蔓をあしらい、空間の広がりを出しています。



木毛セメント板

椅子に使われている素材です。木を細く削った繊維をセメントで押し固めたもので、一般的には屋根の下地などに使われています。

藁左官

「透明な土の壁をつくりたい。」という隈研吾氏の思いに、左官職人の久住章氏が出したこたえは、アルミメッシュに藁と糊を混ぜてコテで塗る方法でした。

「たたみいわしみたいでしょう？」

隈研吾氏のたとえそのままに、藁左官は光を優しく透過します。



芦野石

那須町芦野地区の国道 294 号線沿い約 10 km の地域で産出する安山岩です。準硬石なので加工しやすく、耐久性や耐熱性に優れ、様々な用途に用いられます。



隈研吾氏の設計により 2000 年 5 月に竣工しました。

黒を基調とした色彩の中に、地場産品の芦野石、藁左官、烏山和紙による自然色を配色し、ガラスと石の冷やかさと藁、和紙による温かさを混在させた斬新な雰囲気漂わせています。エントランスは、山藤と葛藤の蔓のパーティションによって仕切られています。外壁がガラスのため、外部との一体感、空間的な広がりを感じられます。

那須歴史探訪館の建物について